

2025年度 LCA国際小学校 学校関係者評価結果

LCA国際小学校では、「グローバルな視野をもち、自己肯定感、Well-beingが高い児童を育成するための教育のさらなる向上」を中・長期の重点目標として学校運営を行ってきました。また、「子どもの個を尊重した教育と英語教育の質の向上」「保護者とのコミュニケーションの充実と学校と家庭の協力体制の増進」を今年度の重点目標とし、新たな施策や改善等に取り組んで参りました。2026年3月に、保護者の代表（低学年1名・中学年1名・高学年1名）にお集まりいただき、学校関係者評価委員会を実施しました。保護者からの貴重なご意見は、今後の教育活動や学校改善計画の参考として活用してまいります。

学校自己評価を受けて、保護者代表と意見交換した内容、保護者から学校への要望など

1. 主要な教育活動の報告と評価

① 算数指導の多層化（ベーシック算数の新設）

- **内容**：4年生から選択できる授業として、従来の「受験算数」「English Math」に加え、検定教科書の内容を確実にする「ベーシック算数」を新設。
- **成果**：基礎事項の定着により、児童が「分かる喜び」を感じ、自己肯定感を損なわない指導を実現。
- **課題**：保護者への伝達が不足しており（個々の習熟度に合わせた指導等）、情報発信の強化が必要。

② 英語教育の質の向上

- **内容**：G1でのレベル別クラス導入、G3以上では週1回「All English Class（会話中心）」を実施。
- **成果**：英語を話す場の増加。英検合格実績も高く（2/10現在：1級1名、準1級12名、2級39名、準2級16名合格）、着実な成果が出ている。
- **議論**：英語力の可視化として、英検だけでなく「TOEFL Primary（世界基準）」の活用についても共有。本校児童は世界的に見ても高いスコア（日本一との評価もあり）を維持している。

③ 行事運営と安全管理

- **成果**：キャンプ、スキー、パフォーマンスデイ等、主体性を育む活動を完遂。
- **課題**：スキートリップでの外部連携ミス（インストラクターとの開始時間の行き違い）が発生。
- **対策**：特定の個人に依存しない運営体制（マニュアル化・要綱の徹底）を構築し、再発防止を図る。

④ 児童指導・支援体制のデジタル化

- **内容**：児童指導（行動面）と児童支援（学習・生活面）の記録を一元管理・共有。
- **成果**：教職員間での迅速な情報共有と、管理職が過去の経緯を即座に把握できる体制が整った。

2. 保護者との連携（コミュニケーション・サポートチームの活動）

- **成果**：保護者有志による「コミュニケーション・サポートチーム」が大規模アンケートを実施。保護者の不安（特に低学年への情報共有）を抽出した。
- **具体的改善策**：

- 算数テキストの「分冊化」による持ち帰りの実現（家庭での進捗把握）。
- 主要3教科の年間カリキュラム（月次進捗）の公開予定。
- 今後：メンバーの固定化を避け、年度ごとに募集を行う形で継続する方針。

3. 外部連携

- 現状：工学院附属中学校、八雲学園中学校、文化学園大学杉並中学校と連携協定を締結。
- 成果：外部における進路実績の評価が着実に高まっている。LCAの児童は「英語力があり積極的」として、提携先からも高く評価されている。
- 今後：来年度は八雲学園中学校のアメリカ・サンタバーバラ施設見学なども計画中。

4. 児童の状況（全国学力調査アンケート結果）

- 「学校に行くのが楽しい」96.7%（全国平均86.5%を大きく上回る）。
- 将来の夢を持っている、人を助けるといった項目でも全国平均を10～20ポイント上回る高い数値を示しており、ウェルビーイングの向上が確認された。

5. 今後の展望

- Instagram等を活用した、数値化しにくい「LCAの良さ（雰囲気）」の発信を継続・強化する。
- 教員研修（木曜放課後の確保）を徹底し、理念の共有と指導の安定を図る。



（学校関係者評価委員会の様子）